

本日の学び テーマ：「種を蒔く人」テキスト：マルコ4章1節-9節

【理解の手がかりとして】

イエス様は言われた。「よく聞きなさい」(4:3)と。この第一声に、この後続くたとえ話の真意が込められていると言える。

ではそのたとえ話、これはイエス様が数多くされたたとえ話の中で最も理解しやすいものである。なぜなら、13節~20節のところにその説明がされているからである。ゆえに多くを説明する必要はない。その上で、このたとえ話を理解するための二つの点を記す。

① 収穫の約束

第一の点は、「収穫の約束」である。ここには4種類の土地が出てくる。「道端」「石だらけで土の少ない所」「茨の中」そして「良い土地」である。このように互いに異なる種類を挙げて比較する話は他にもある。そしてその強調点は必ず最後にある。つまりここでは「良い土地」のことである。その「良い土地」では、その収穫が30倍、60倍、100倍にもなった、と言われている。これは大変な量であり、大いなる祝福がここにある。それが「良い土地」の実りであり、「収穫の約束」である。

一方、このたとえ話では、蒔かれる種は同じでも、土地や環境は異なったものがあり、そしてその違いが収穫に大きな違いがあることが記されている。これは当時の種まきの仕方が、耕された良い土地にだけ種を蒔くのではなくて、いわゆる「散布」という仕方で種を蒔くからである。そうすると、その蒔いた種が風で飛ばされ、ある種は道端に、ある種は石だらけの土地に、そしてある種は茨の中に落ちるわけである。

思えばそれは、私達人間の世界と同じ。イエス様の言葉は2千年にわたって語られてきた。これは永遠に変わる事のない真理として、常に「良いもの」として蒔かれてきた。そしてその種蒔きの働きに教会が、キリスト者一人一人が用いられてきた。しかし時にその「福音の種蒔き」は、道端や石だらけの土地、茨の中で実を結ばない結果の前で挫折してきた。このたとえ話は、その困難を明確に示している。

けれども、このたとえ話は、それで終わってはいない。そういう中でも必ず「良い土地」があることを示し、そしてその実りを約束しているのである。

ある人の言葉。「あらゆる危険と損失にもかかわらず、農夫はずばらしい収穫を刈り取る。あらゆる挫折と失敗にもかかわらず、たとえそうであっても、神の支配は前進し、神の収穫は期待を越える」と。大変力強く、そして励ましに満ちた言葉である。そう、このたとえ話で私たちが心に留めなければならないことは、「収穫の約束」であって、失敗ではない。

イエス様はこのたとえ話を通して、現実の厳しさの前に意気消沈している弟子たちに対して、「何事にも絶対に失望するな」と語り、そして「神の力、福音の種の可能性を信じる信仰を持ち続けなさい」と教えているのである。

そして何より大切なのは、種を蒔かれるお方は、他でもなく主ご自身であり、育てて下

さるのも主ご自身だということ。使徒パウロはこう言っている。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」（第一コリント3:6）と。

## ② 私たちがいかに福音を聞くか

第二の点は、「私たちがいかに福音を聞くか」ということ。収穫の約束に励まされながら、同時に私たちが考えるべきことは、私たち自身の心と生き方の問題である。

最後の「良い土地」に強調点があると言いつつも、その前段の「道端」「石だらけで土の少ない所」「茨の中」の問題について無視はできない。何よりイエス様ご自身が、その説明に多くの部分を割いておられる。育てて下さるのは主である、との信頼を置きつつも、同時にその種を受け取る人間の問題を軽く考えてはならない。

最初に「よく聞きなさい」という言葉にこそこのたとえ話の真意がある、と言ったことを思い出してほしい。私達の聞き方には様々な聞き方がある。心ここにあらずで、聞いているように見えて、実は全く別のことを考えている場合も少なくない。「道端」の状況はそういうことを言っている。また、瞬間的には感動し信仰を決断しても、その思いが持続せず、その信仰の熱がすぐに蒸発してしまう。根が張っていないので強い風（苦難）ですぐさま枯れてしまう。「石だらけで土の少ない所」とはそういうこと。またこの世の価値観、心配事、魅力、誘惑から自由になれずに、主の力に頼りきれず大きく育てない。これが「茨の中」の事柄である。

そして実は、私たちはその全ての可能性と現実をあわせ持っている者たちだということ。その私たちにイエス様は「堅い土地のような頑固な心ではなく、瞬間的に燃え上がってもすぐに蒸発する浅い土地でもなく、誘惑に遮られる茨の土地でもなく、素直に吸収し、しっかりと根を張り、天に向かってまっすぐ伸びていく『良い土地』になりなさい。」と命じておられる。

土地を耕すときに必要な道具に「鍬（クワ）」がある。私の初任地（函館教会）のある教会員がいつも口にしておられた言葉を紹介する。「良い土地になるために、キリストの十字架という鍬（クワ）で日毎自分の心を耕される事が大切です！」。

（聖書教育より） 「イエスさまは、私たちが良い土地であることを期待しつつこの暗いこの世界に希望の種を蒔き続けておられます。」（大人クラス）